

# 人権教育だより 2学期

島根県立大東高等学校

## スマイリーキクチさんによるご講演（織部祭1日目）

SNSの誹謗中傷について、実体験を踏まえてお話し

いただきました。生徒たちも一番身近なSNSとの  
付き合い方を考えなおす機会になったと思います。

責任を持った発言・発信を考えていきましょう。



### 【生徒感想】

- ⇒スマホはよく使いますが、LINEだけじゃなくてユーチューブやInstagramなどを見る機会も多くあります。特に自分からは発信することはありませんが、見たりコメントしたりするときには相手の顔が見えてないので、慎重に考えてから発信していきたいと思いました。
- ⇒自分は誹謗中傷を受けたことはありませんが、今日の話を聞いて、1人の何気ないコメントだったとしても見る相手がいるということをSNS上では意識していかないといけないと思いました。

## 2学期 人権学習ホームルームを実施しました

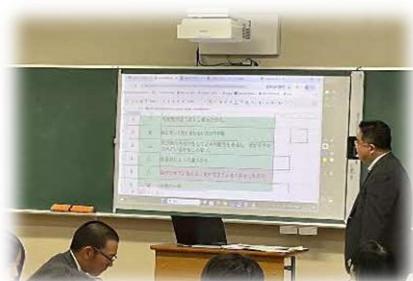


### 1年生～ちがいのちがいについて～

1年生は、人権学習HRで「違いの違い～偏見と差別について考える～」について学びました。身の周りにあるちがいについて、「あってよい違いか、あってはならない違いであるか」を、グループで話し合いました。

### 【生徒感想】

- ⇒3つの事例からあってはよいこと、ならないこと、判断に困ることが意外と人の考え方と違っていてたくさんの状況を考えて意見を出し合って違いを感じることができました。もしこうだったらとかこうじゃなかったらなども含めて考えていろんな状況が考えられるなと思いました。これからも違いを理解して相手を理解して生活していきたいなと思いました。
- ⇒人によって考え方全然違ったけど、三角(△=判断に迷う)にした人はだいたい、～かもしれないを考えていることが多く広い視点で複数のところから、見ることができているなどと思いました。大事なことは決めつけないことだと思います。





## 2年生 ~ヤングケアラーってなに?

2年生は、出雲市にある「コネクトほーむ」代表 井上恵理子さんから、ご自身がヤングケアラーだった体験をもとに ヤングケアラーとは何か、どういう問題があるのか、お話を伺いました。

ヤングケアラーとは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことをヤングケアラーと呼びます。



### 【生徒感想】

⇒今日、ヤングケアラーについてのお話を聞いて、同じような年齢の学生さんたちが自分の時間を削って家族の面倒を見る人がいることを知って、もし、自分がその立場だったら大変すぎて追い込まれて行きそうだし、メンタル的にも身体的にも辛いと感じるだろうなと思いました。だから周りにいるヤングケアラーの人が話を聞いてもらいたいと思っているのであれば、言うことで頭もスッキリするだろうし、ちからになりたいと思いました。また、私の家もおばあちゃんがいて私は話すだけだけど家のこととかをお母さんがやってくれているので、時間がある日はお母さんのお手伝いもしていきたいです。

⇒私はヤングケアラーという言葉を初めて聞きました。ヤングケアラーはすごくいい経験でもあると思うけど、行き過ぎるといけないということがわかりました。もし私がそういう立場になったらどうしたらいいか、もし友達に相談をされたらどんな言葉をかければいいのか、どんな行動を取るべきなのかをすごく考えることができました。また、ヤングケアラーは結構身近なものということがわかりました。ヤングケアラーさんのための相談所が島根にあるということにびっくりしました。ヤングケアラーのことを聞けてよかったです。



## 3年生 ~結婚差別について考える~

3年生は、毎年この時期の人権学習 HR で「結婚差別」について学びます。

18才になれば、本人同士の合意ができるはずの結婚を「生まれ」を理由にして反対すること、これが結婚差別です。同和地区出身というだけで、結婚を反対される不合理さを理解し、部落差別を解消するための正しい知識を身につけ、差別のない社会を作るためどのように行動するかを考えました。

### 【生徒感想】

⇒部落差別の問題は家族の間でも話題に出てきたことがあります。学校教育の場で子どものうちから部落差別の問題を勉強することが問題解決につながると思っています。そうすることで必ずいつか部落差別の問題はなくなり、自分たちに関係のないことで理不尽な思いをする人は減ると思っています。自分の意志をしっかり持つことも大事だと思います。去年の授業でも部落差別のことを学んだのですが、今回の授業でもっと理解を深めることができました。

⇒今回の授業を通して、結婚差別が深刻な問題だということを学びました。出身など、本人ではどうにもできない理由で結婚を反対されたり、偏見を向けられたりするのは、人権を侵害する行為だと感じました。また、当事者だけでなく家族や周囲の人の思い込みが差別を生むことがあると知り、自分の中にも無意識の偏見がないか考える必要があると思いました。結婚は本人同士の意思が尊重されるべきであり、誰もが自由に将来を選べる社会をつくるために、正しい知識を持ち、差別に気づいたら行動できる人になりたいと感じました。

